

聖霊降臨節第二十三主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前 奏（黙祷）
「主をほめたたえよ」
（讃美歌 21 の 151 番）
H.ペーター作曲

あいさつ
讃 美 讃美歌 21/503 番
開会の祈り
交 読 詩 篇 詩編 120 篇

【第一部 み言葉の礼拝】

聖 書
✦エレミヤ書 2 章 4～9 節
✦ヨハネによる福音書 8 章 12～20 節
（旧約 P.1174、新約 P.181）

応 答 唱 讃美歌 21/46 番
教 話 井上隆晶牧師
『わたしは世の光である』
使 徒 信 条

【第二部 聖餐礼拝】

奉 献 讃美歌 21/72 番
教会の祈り（連祷）
平和の挨拶
讃 栄 讃美歌 21/83 番
主のいのり
陪 餐

【応答と派遣と祝福】

讃 美 讃美歌 21/509 番
感謝の献物
栄光の讃美 讃美歌 21/24 番
祝福の祈り 井上隆晶牧師
後 奏（黙祷）
「光の子になるため」
（讃美歌 21 の 509 番）高浪晋一作曲

【本日の礼拝奉仕者】

司式補佐 勝見 仁
奏 楽 鹿野幸枝
献金当番 小渕公子
受付当番 澤田昌人

【本日の予定】

◇教会学校（朝 9 時 30 分）
・お話し：澤田昌人
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）
◇教会学校教師会（礼拝後）

【今週の教会での集会のご案内】

◇朝の祈り
・11 月 11 日（火）午前 9 時
・11 月 14 日（金）午前 9 時
◇英会話グループ
・11 月 13 日（木）午後 7 時 30 分

【次週主日 11 月 16 日のご案内】

◇教会学校礼拝（午前 9 時 30 分）
・お話し：井上万里子
◇主日朝礼拝（午前 10 時 30 分）
・聖 書
✦ エレミヤ書 4 章 1～4 節
✦ ヨハネ福音書 8 章 31～38 節
・教 話 井上隆晶牧師
『真理はあなたを自由にする』
・讃美歌 21 137、46、443
・交読詩篇 詩編 121 篇
・司式補佐 澤田昌人
・奏 楽 飯田雅子
・献金当番 未定
・受付当番 屋宮英男
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）
◇伝道委員会（礼拝後）

聖 句

「わたしは世の光である。わたしに従う者は
暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

（ヨハネ 8 章 12 節）

【諸報告・個人消息】

- ①《今週の井上牧師の予定》：11 日（火）午後 1 時「シャロン千里施設連絡会」、13 日（木）午前 8 時 50 分「大宮保育園遠足」
- ②《11 月の教会行事予定》
- 11 月 18 日（火）午前 10 時「心の病の勉強会」
参加費 500 円
- 11 月 23 日（日）午前 10 時「収穫感謝礼拝」、
礼拝後「鍋会」
- 11 月 24 日（月）午後 1 時 30 分「シャロン千
里礼拝」
- ③11 月 3 日（月・祝）の大阪メモリアルパーク
での墓前礼拝は大人 14 名、子供 1 名の計 15 名
が参加されました。感謝します。
- ④先週の礼拝に初めて温路路（ロロ）さん、高一
くん、高豊（ハウ）くん、親子が参拝されました。
感謝です。良き交わりを祈ります。
- ⑤【祈祷課題】新しい教会堂を立てる為。ウクラ
イナとガザに平和が実現する為。刑務所にいる友
と家族の為。子供たちの成長の為。新しい信徒、
求道者が与えられる為。
- ⑥【先週の集会統計】

日	集 会	男	女	大人	計	礼拝献金
2	CS 礼拝	—	1	4	5	¥1,400
	集 会	男	女	子ども	計	礼拝献金
2	朝の礼拝	5	16	5	26	¥10,250
6	朝の祈り	3	1	—	4	
7	朝の祈り	2	3	—	5	

- ⑦【11/2 の献金報告】
- 〔月定〕井上隆晶、相澤美子、飯田雅子、井上万
里子、井上朝子、井上聖一郎、勝見仁、小坪英恵、
小渕公子、小渕賀裕、鹿野幸枝、寺田律子、菱田
朱美、山千代憲一、山千代誠子（計 112,500 円）〔
感謝〕飯田雅子、阪口恵美子（計 12,000 円）〔
建築〕井上隆晶、飯田雅子、井上万里子、寺田律子（計
13,000 円）〔互助〕井上隆晶、井上万里子、屋宮英
男、鹿野幸枝、寺田律子（計 6,000 円）

【先週の説教要旨の続き】

「私は今日「上のものに属しなさい」という話し
をしています。上のものに属するとは「神の国に
属する」ということです。私たちは洗礼によって
キリストと共に葬られ、この世に死んだのです。
同時に復活して神の国に属する者とされたので
す。肉体はまだこの世にありますが、すでに神の
国に生きているのであって国籍は天にあるので
す。それはまた「主人が変わった事」でもあるの
です。キリストを主人としたのですから、地上の
主人に仕えてはなりません。二ヶ条信条で「また
信ず。唯一の主、イエス・キリスト」と告白するよう
に、主人はただ一人キリストだけです。だから初
代のクリスチャンたちは地上の主人（皇帝）を拒
否し、喜んで殉教したのです。

2 世紀のスマルナの監督であったポリュカルポ
スは使徒ヨハネの弟子でした。迫害によって捕ら
えられ、刑場に引かれてゆきました。執行官が彼
に最後のチャンスを与えようとして言いました。
「キリストを呪え、そうすれば助けよう。」ポリ
ュカルポスは答えました。「私は 86 年間、キリス
ト様に従い続けてきましたが、その間ただの一度
も私に不幸をお与えにならず、恵みのみを与えて
下さいました。こんなにまで私を愛して下さいま
す。どうして呪うことができますよう。」こう言
って彼は殉教していきました。

主人であるキリストが守れと言われた言葉なの
ですから、それが天国の法なのであり、それを私
たちは守るのです。それなのにどうしてこの世に
属するかのように生きるのですか？初代教会の
信徒たちは、信仰とはこの世に死に、神の国に生
まれることだとはっきりわかっていました。この
世は過ぎ去ります。永遠に残るものにこそもっと
時間を使うべきなのです。キリストに属する者、
天の国に属する者として賢くこの世を生きまし
ょう。